

学校教育ビジョン ◎校訓 「信」 ◎学校教育目標 私もみんなも幸せになる河南小 ～幸せな未来を拓く子の育成～ ◎重点目標 「あいがい～っぽいあふれる学校」	くめざす児童像 ○「自分で」「自分から」行動できる子 ○夢や目標に向かって挑戦し続ける子 ○おあしすの心にあふれる子	くめざす教師像 ○レボリューション！（変化を恐れず挑戦し続ける） ○えみF U L L ! (笑顔いっぱい) ○コラボレーション！（みんなの良さを集結）
---	---	---

評価の項目	今年度の重点目標	具体的な取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	委ねる授業づくりを通して、個の確かな学力の定着を図る。	・習熟度別プリント等の個別最適な学習環境を整える。 ・ノート指導を通して、学習用語や既習漢字を正しく用いて学びをまとめる力の向上を図る。	教務	これまでの取組により、基礎学力が少しずつ向上し、自分の考えを述べることができる児童も増えた。基礎学力の定着と、学習用語を正しく用いて論立てて説明する力の向上をねらいたい。	(成果指標) 個の確かな学力が身についている。	国語・算数の単元評価テストでの平均点が80点以上の児童が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	単元評価テストでの平均点(1, 2学期末)で評価する。			
	自律した学び手として、自分の学びを自己調整しながら主体的に学ぶ児童を育てる。	児童が問い合わせをもち、粘り強く課題を解決していくような単元設計、授業作りを行う。児童と教科や学び方の目標を共有し、振り返る。	研究	学習の「はなまるスタイル」が定着し、学び方のめあてに向かって学習に取り組んでいる。しかし、学び方を振り返り学びを自己調整していく力が弱い。	(成果指標) 自律した学び手となり、学習に取り組んでいる。	「？」の解決に向けて、自分で考え、粘り強く取り組んだ」と答えた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート(1, 2学期末)の項目で評価する。			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	安心・安全な河南小をめざし、自ら考え行動できる児童を育てる。	おあしすの心を土台とし、生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりをすすめる。	生徒指導	児童同士の言葉遣いやトラブル、いじめについて教職員がチームとして取り組んできた。今後は自分の考え方や意見を安心して表現できるよう、生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりをすすめていく必要がある。	(成果指標) 学校が安全で安心できる場所だと考えている。	「学校は安全で安心できる場所だ」と答えた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート(1, 2学期末)の項目で評価する。			
③キャリア教育・進路指導	夢や目標をもち、様々なな行事や活動に積極的に参加し、自主自律の精神と態度を養う。	キャリアパスポートを活用し、将来の夢や目標だけでなく、短期・中期(学期・年間)の目標設定をして振り返る。	キャリア	行事や学習活動に意欲的に取り組む児童が多い。夢や目標に向かって努力し、達成感を味わえるようにしたい。	(成果指標) 夢や目標をもって、一生懸命取り組んだと答えた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	「夢や目標に向かって、一生懸命取り組んだ」と答えた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート(1, 2学期末)の項目で評価する。			
④保健管理	元気の源である歯の健康について理解を深め、歯の健康推進に努める児童を育てる。	食後の歯磨きを奨励するとともに、年2回の歯磨き週間の取組を通じて食後の歯磨きなどを習慣化させる。	保健	給食後の歯磨きを毎日できた児童は72%で食後の歯磨きが定着していない。また、歯科治療率が9月時点で40%で歯の治療に対する意識が低い。	(成果指標) 歯みがき週間で給食後に歯みがきをすることができる。	給食後に歯磨きすることができた児童が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	歯みがき週間(6月・11月)の歯みがきカレンダーの項目から評価する。			
⑤安全管理	児童が日頃から命を守るために適切な判断と行動ができるように、防災への正しい理解や意識の向上を図る。	地域・家庭の連携や防災教室等により、学校内外での防災に対する正しい知識と判断力を身につけさせ、命を守る行動がとれるようにする。	教頭	地震や火災での避難訓練では約9割の児童が命を守る行動ができると答えておりが、どのような災害や状況においても自ら考え、判断して行動できるようにしたい。	(成果指標) 学校内外における災害時の命を守る行動について理解させることができる。	学校や家の災害時の行動がわかり、避難訓練でも正しく行動できたと答える児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	防災教室・避難訓練等を経験後、学期末に児童アンケートを実施し、評価する。			
⑥特別支援教育	全職員で児童の実態把握に努め、個に応じた支援や配慮の充実を図る。	校内特別支援委員会を中心に、専門機関の協力を得ながら、全体や個に応じた支援や配慮を組織的に行う。児童の実態や教職員のニーズに合わせ、研修の場を設ける。	特別支援	児童理解に全職員で取り組んでおり、誰一人取り残さない授業を心がけている。有効な支援について共通理解する場を設定し、よりよい支援につなげたい。	(努力指標) 全体や個に応じた有効な支援に取り組むことができた教職員が、 A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	全体や個に応じた有効な支援に取り組むことができた教職員が、 A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	教職員アンケート(1, 2学期末)の項目で評価する。			
⑦組織運営・業務改善	教職員の働き方改革を推進し、時間外勤務時間を年360時間以下(月平均30時間以下)をめざす。	マイ定時退校日を設定し、効率的・効果的な働き方を推進する。	教頭	昨年度、1月45h超が年間で6回超が2人、2回が2人、7回以上超過した職員は1人であった。年間360時間以上は3人(約21%)と、令和5年度より若干改善されているが、さらに推進したい。	(努力指標) 超過勤務時間の削減をめざし、設定した「マイ定時退校日」に積極的に定時退勤できる。	月ごとの「マイ定時退校」を職員がどれだけとれたか A: 月3回以上とれた職員が8割 B: 月2回とれた職員が8割 C: 月1回とれた職員が8割 D: 月1回もとれなかった	教職員アンケート(1, 2学期末)の項目で評価する。			
⑧研修	適切な研修を計画的・意図的に実施し、教職員の資質能力の向上に努める。	県教員総合研修センターのサポート訪問を活用するなど充実した校内研修を年間を通じて実施する。	教務	小規模校であるため、同学年での教材研究ができない。放課後の教材研究する時間を確保し、有効活用できるようにする。	(成果指標) 教師力向上と人材育成を視野に入れた効果的な研修を、積極的に企画・立案・実行し、学んだことを活かす。	校内研修、若プロなどで学んだことが学級経営や授業づくりに役立ったと回答する教員が、 A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	教職員アンケート(1, 2学期末)の項目で評価する。			
⑨保護者、地域との連携	家庭や学校運営協議会(コミュニティスクール)との連携を深め、地域の特色や良さを大切にできる学校をめざす。	コドモン、ホームページ等により情報提供を行うとともに、地域教材や地域人材を取り入れながら、保護者・地域と連携した教育実践を行う。	教頭	昨年度は、外部人材を授業等に積極的に活用できていた。引き続き、外部人材の活用を進めるとともに、教材として活用できる地域の良さ・特色等を開発し、引き継げるようになる。	(成果指標) 外部人材、地域教材などを生かした授業をどの学年でもできるように教材開発や外部連携を行っている。	外部人材や地域に開発した教材を授業等で活用することができた職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	職員アンケート(1, 2学期末)で評価する。			
⑩教育環境整備	教職員が授業や業務改善のためにICTを効果的・積極的に活用できるよう、研修や整備を進める。	ICTサポートやICTヘルパー連携とし、教職員・児童がICTをスムーズに活用できるよう、校内環境を整える。	情報担当	昨年度は、ペネッセやICTサポートなどの外部人材を授業や研修において積極的に活用することができた。外部人材の力を引き続き活用し、授業や業務改善につなげたい。	(努力指標) ICTサポートやヘルパーとの連携を図り、効果的に環境整備を図る。	ICTの整備により授業改善や業務改善につながったと感じる職員が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	教職員アンケート(1, 2学期末)の項目で評価する。			

学校関係者評価	
---------	--